

令和4年11月24日  
日の出町教育委員会指導室

GIGA スクールの推進

# 日の出町のすべての子どもたちの 今のしあわせと未来のしあわせの 基盤を創る日の出町の教育



日の出町教育委員会指導室

# 本資料作成の趣旨

## 1 教育を取り巻く環境の変化

2030年の社会と子供たちの未来を見据え、平成29年に現行の学習指導要領が告示され、小学校では令和2年度から、中学校では令和3年度から全面実施となりました。

学習指導要領の告示以降、世界的な新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、学校においては全国一斉の臨時休業や、一定の条件や制限の中での教育活動を余儀なくされ、子どもたちの学びに大きな影響を与えています。また、令和元年6月には、学校教育の情報化に関する法律が公布・施行され、学校教育の情報化が急速に進展しました。その後、GIGAスクール構想により、1人1台のタブレット端末及びネットワーク環境等、順次、学校におけるICT環境の整備が進んでいます。

## 2 学校教育の使命・役割

平成28年の中央教育審議会の答申において、2030年の社会と子供たちの未来について、以下の記載がありました。

社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となっており、しかもそうした変化が、どのような職業や人生を選択するかにかかわらず、すべての子供たちの生き方に影響するものとなっている。社会の変化にいかに対処していくかどうかという受け身の観点に立つのであれば、難しい時代になると考えられるかもしれない。

しかし、このような時代だからこそ、子供たちは、変化を前向きに受け止め、私たちの社会や人生、生活を、人間ならではの感性を働かせてより豊かなものにしたり、現在では思いもつかない新しい未来の姿を構想し実現したりしていくことができる。

このことを踏まえると、これからの学校には、子供たちが自分の良さや可能性を認識するとともに、他者を価値ある存在として尊重し、互いに認め合い、多様な他者と協働しながら、様々な社会的変化や困難を乗り越え、自己のしあわせを実現するためによりよい人生を切り開く基盤をはぐくみ、社会のしあわせをも実現する持続可能な社会の創り手として育成していくことが求められています。

また、いかに社会が変化しようとも、時代が移り変わっても、学校には「人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成」という教育の目的を達成することが求められます。そのために、子供たちに知・徳・体のバランスの取れた「生きる力」を育むために、子供たちの発達段階や特性等を踏まえ「知識及び技能の習得」「思考力、判断力、表現力等の育成」「学びに向かう力、人間性等の涵養」を偏りなく実現する必要があります。

以上のことを踏まえ、今後、日の出町において、次代を担う子供たちが、かわりやつながりを大切にして、地域・社会・自然とともに生き、夢や希望の実現に向けて、志をもって、自らの道を拓く人として成長していけるよう、より質の高い学校づくり、充実した教育活動の一層推進に資する参考資料として作成しました。各学校の状況に応じて活用していただけると幸いです。

# 日の出町の GIGA 構想の推進の全体像

## GIGA スクール構想の背景

- 学習者用コンピュータの整備状況について市区町村間で差が拡大し、自治体の取組により大きなばらつきが見られ、学校の環境に差が生じている。(国調査)
- 日本では学校現場にとっても、社会全体が学習のために ICT を活用するという認識が極めて低く、特に学校における利活用が世界から大きく後塵を拝している。(OECD 調査)

## GIGA スクール構想が目指すもの

- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童・生徒の力を最大限に引き出す。

## 学びへの効果的活用

- 「すぐに」「どの教科でも」「誰でも」使える。
- 「1人1台のタブレット端末を利用して、学びを深め、学びの本質に迫る。」
- 「1人1台のタブレット端末を利用して、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。」

## 日の出町の ICT 環境の整備状況と課題

- ICT 機器の整備
  - ・デジタル指導書
  - ・児童生徒一人1台タブレット端末
  - ・大型液晶テレビ
  - ・プロジェクター
  - ・WEB 会議用カメラ
  - ・学習用クラウドサービス・アプリケーション
- ネットワーク環境
  - ・インターネット通信速度を 200Mbps から 1Gbps へ
  - ・各校への無線ネットワーク回線の整備 (令和2年度)
- 今後の課題
  - ・通信環境の改善

## 日の出町立学校の活用状況と課題

- 文書作成機能を活用した小学校国語科での「作文」
- 動画撮影機能を活用した中学校「実験の観動察・考察」
- WEB 会議システムを活用した中学校での不登校支援オンライン授業
- 授業における ICT 機器の活用では、特に小学校において活用できていない実態がある。児童・生徒の情報活用能力の育成を図るために、1台端末の活用を一層推進していく。

## GIGA スクール構想の推進に向けた今後の方向性

- ICT 環境のさらなる整備
- ICT の効果的活用による実践の積み重ね
- 情報モラル教育の推進と家庭への啓発

# I GIGA スクール構想の背景

Society5.0 社会の到来により、社会は大きく変化を迎えています。この新しい時代を担う子供たちにとって、日常生活の中で ICT（情報通信技術）を用いることはもはや当たり前で、新たな時代のスタンダードとなっています。こうした社会を迎えつつある中、児童生徒1人1人が学びにおいても ICT をフル活用できるよう、学校教育の情報化を早急に進めていくことが不可欠となっています。

## 学校における ICT 環境、利活用の現状

### 【学校の ICT 環境の現状】

文部科学省が実施した「平成 30 年度学校における教育の情報化の実態等に関する調査」によれば、第 3 期教育振興基本計画に定めた学習者用コンピュータの整備目標値である 3 人に 1 台に対して、平成 31 年 3 月現在の全国平均値は 5.4 人に 1 台（前年度は 5.6 人に 1 台）にとどまっています。また、都道府県別に見ると最高で 1.9 人に 1 台、最低で 7.5 人に 1 台となっており、さらに市区町村別ではその差が拡大しているなど、自治体の取組により大きなばらつきが見られ、子供たちが通う学校の環境に差が生じてしまっている状況でした。

### 【教育における ICT 利活用の現状】

経済協力開発機構（OECD）が 2018 年度に実施した「生徒の学習達成度調査（PISA：ピザ）」では、参加国の生徒に ICT 活用調査も調査しています。この結果では、学校外でのインターネットの利用時間は、ネット上でのチャットやゲームを利用する頻度の高い生徒の割合が OECD 平均を超える一方で、コンピュータを使って宿題をする頻度が OECD 加盟国中最下位であるという結果が示されました。

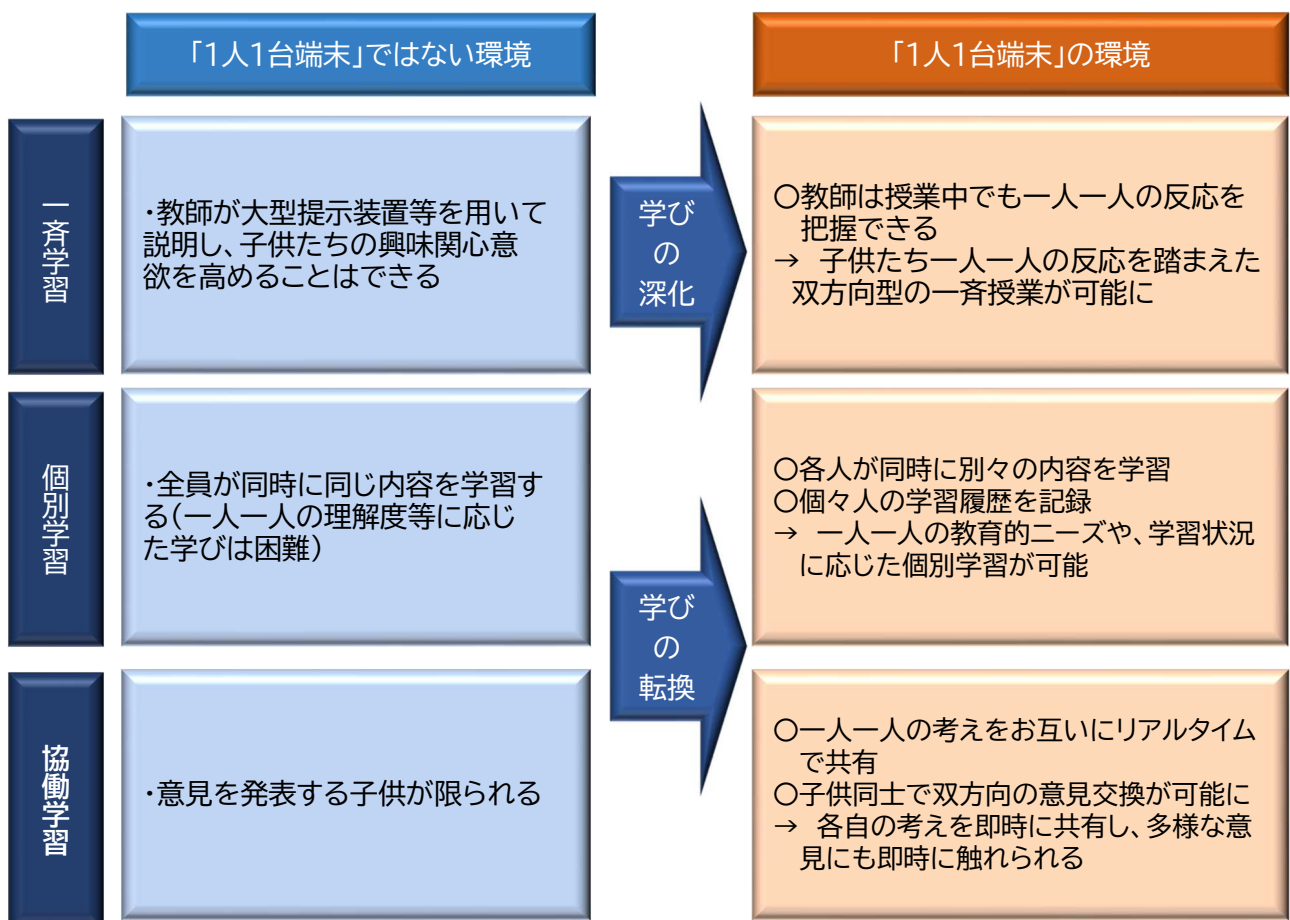
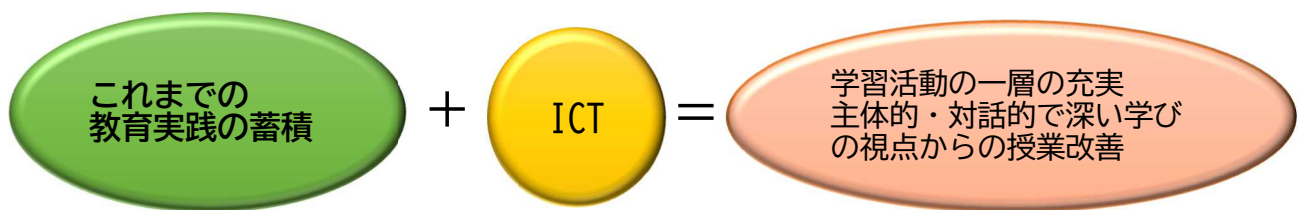
同じく OECD が 2018 年に教員を対象に実施した「国際教員指導環境調査（TALIS：タリス）」の結果によれば、わが国の教員が学校で児童生徒に課題や学級での活動に ICT を活用させる割合は 20%に  
至っておらず、TALIS 参加国 48 か国の中で最下位レベルと  
いう結果が示されています。

これらの結果から、日本では子供たちにとっても学校現場にとっても、言い換えれば社会全体が学習のために ICT を活用するという認識が極めて低いこと、その結果、特に学校における利活用が世界から大きく後塵を拝しているという状況に至っていることが分かりました。



## Ⅱ GIGA スクール構想が目指すもの

- 1人1台端末と、高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子供を含め、多様な子供たちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育環境を実現する。
- これまでの我が国の教育実践と最先端のベストミックスを図ることにより、教師・児童生徒の力を最大限に引き出す。





### Ⅲ 学びへの効果的活用

#### 1 「すぐに」「どの教科でも」「誰でも」使える。

<p>検索サイトを活用した調べ学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が情報を検索し、収集・整理</li> <li>○子供たち自身が様々な情報にアクセスし、主体的に情報を選択する</li> </ul>	<p>文章作成ソフト、プレゼンテーションソフトの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子供たち一人一人が考えをまとめて発表</li> <li>○共同編集で、リアルタイムで考えを共有しながら学び合い</li> </ul>
<p>一斉学習場面での活用</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○誰もがイメージしやすい教材提示</li> <li>○一人一人の反応や考えを即時に把握しながら双方向的に授業を進める</li> </ul>	<p>個々の学習状況に応じた個別学習</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○デジタル教材を活用し、一人一人の学習進捗状況を可視化</li> <li>○様々な特徴を持った生徒によりきめ細やかな対応を行う</li> </ul>

#### 2 「1人1台のタブレット端末を利用して、学びを深め、学びの本質に迫る。」

<p><b>国語</b> 書く過程を記録し、よりよい文章作成に役立てる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○文書作成ソフトで文章を書き、コメント機能等を用いて助言しあう</li> <li>○文章作成ソフトの校閲機能を用いて推敲し、データを共有する</li> </ul>	<p><b>社会</b> 国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして、深く分析する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各自で収集したデータや地図を重ね合わせ、情報を読み取る</li> <li>○分析した情報を、プレゼンソフトで、わかりやすく加工して発表</li> </ul>
<p><b>算数 数学</b> 関数や図形などの変化の様子を可視化して、繰り返し試行錯誤する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○画面上に表示した二次関数のグラフについて、式の値を変化させて動かしながら、二次関数の特徴を考察する</li> <li>○正多角形の基本的な性質をもとに、プログラミングを通して正多角形の作図を行う</li> </ul>	<p><b>理科</b> 観察、実験を行い、動画等を使ってより深く分析・考察する</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○観察、実験を動画等で記録することで、現象を科学的に分析し、考察を深める</li> <li>○観察、実験のレポートやプレゼンテーション資料などを写真やグラフを挿入するなどして、一人一人が主体的に作成する</li> </ul>

<p><b>外国語</b> 海外とつながる「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が海外の子供とつながり、英語で交流・議論を行う</li> <li>○ライティングの自動添削機能やスピーキングの音声認識機能を使い、アウトプットの質と量を大幅に高める</li> </ul>
--

#### 3 「1人1台のタブレット端末を利用して、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。」

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICT を効果的に活用することができる	
課題の設定	実社会の問題状況に関わる課題、進路や教科等、横断的な課題などを設定
情報の収集	文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等
整理・分析	統計による分析、試行ツール、テキストマイニング等で分析
まとめ・表現	論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信

# Ⅳ 日の出町の ICT 環境の整備状況と課題

## 1 タブレット端末をはじめとする ICT 機器の整備状況

- 小学校外国語科教師用デジタル指導書の導入（令和2年度）
- 児童生徒一人1台端末の配布（令和2年度）
- 学習用クラウドサービス・アプリケーションの導入（令和3年度）
- 大型提示装置（液晶テレビ、プロジェクター等）の購入（令和3年度）

## 2 ネットワーク環境の整備状況

- インターネット使用契約変更（通信速度 200Mbps から 1Gbps）（令和2年度）
- 各校における無線ネットワーク回線の整備（令和2年度）

## 3 オンライン授業の実施に向けた環境整備状況

- 授業目的公衆送信補償金制度の加入（令和3年度から）
- WEB 会議用カメラの購入（令和3年度各校8台）

## 4 今後の課題

### ○通信環境の改善

学級内で同時にパソコンを接続すると通信環境に負荷がかかり、数人の通信速度が遅くなったり、途切れてしまったりする現象が起こる。

上記の課題を受け、令和3年から無線 LAN アクセスポイントの周波数帯の調整、キャッシュの定期的な消去等を試しながら改善策を模索している。

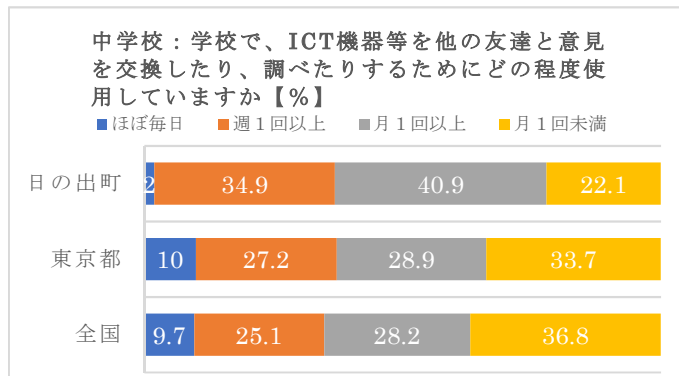
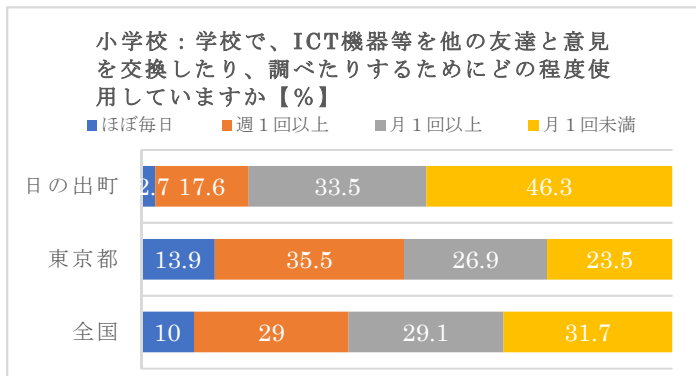
# V 日の出町立学校の活用状況と課題

## 1 令和3年度における活用状況

【令和3年度全国学力・学習状況調査から（小学校6年生、中学校3年生）】

図1

図2



## 2 日の出町立学校における活用例

小学校「秋探し」  
撮影機能



小学校「作文」  
文書作成機能



中学校「実験の観察・考察」  
動画撮影機能



小学校「音読」  
動画撮影機能



中学校「作曲」  
音楽作成アプリケーション



中学校 不登校支援オンライン授業  
WEB 会議システム



## 3 今後の課題

○図1及び図2から、授業におけるICT機器の活用では、特に小学校において活用できていない実態がある。令和3年度に整備したGIGAスクール構想に基づく一人1台端末の活用を一層推進し、児童・生徒の情報活用能力の育成を図っていく必要がある。







日の出町教育委員会

G I G A スクール構想の推進